

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070600307		
法人名	有限会社 深英会		
事業所名	グループホーム サンフラワー 1ユニット		
所在地	群馬県沼田市新町452-1		
自己評価作成日	令和元年10月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和1年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を基に、社長・管理者・副管理者をはじめ、職員が理念を理解し実践に取り組んでいます。又、朝礼時には理念の説明や「職員規約」を職員皆で復唱しています。理念の中の「みんなで築こう」のみんなには利用者様・ご家族様・地域の方々・ボランティア・職員などが含まれており、地域の中のサンフラワーを目指しております。地区行事の参加やボランティアの慰問の招待など地域交流を図っております。運営理念に沿ったサービス提供ができるよう、月1回の勉強会・外部研修・国家資格取得に向けて個々のスキルアップ、日々のサービスの向上に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

5つのユニットで構成されている事業所であり、理念を毎朝唱和し、また、毎年ユニットごとに理念に照らして現状の課題、解決策を話し合い、ユニットごとに目標を定めている。利用者ができるところを活かし、その方がその方らしく暮らせるように取り組んでいる。地域の年間行事の祭り・清掃活動、学校行事などを、事業所の年間行事に取り入れて、地域の祭りでは神輿の休憩所として駐車場を開放したり、バーベキューをして地域の方を招いたり、運動会に職員が参加したり、草刈りや道路清掃に職員が参加したりしてつきあいを広げ、地域交流を図っている。また、幼稚園児、地域住民、利用者友人、ボランティアが来訪し、地域に溶け込んだ生活環境を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するために職員規約を配布して朝礼で唱和している。月に2回会議で話し合いを行って各ユニットで理念を元に目標を立てている。	毎日の朝礼時に理念を復唱し、全職員に浸透するよう意識づけを図っている。毎年各ユニットごとに、理念に照らし合わせた現状の課題とその解決策を話し合い、ユニットごとに目標を定めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	どんだん焼きや町の清掃、祭りに参加し利用者様と地域の方々とともに楽しんでいる。	地域祭りに利用者・職員共に参加し、神輿の休憩場所として駐車場を開放して、終了後にはバーベキューを行い、地域の方と楽しんでいる。地域の年間行事にも各ユニットから利用者・職員が参加し、年間予定に組み込まれている。運動会、道路清掃、草刈りなどで地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度、運営推進会議を区長様・民生委員様・市の職員の方などと情報提供や支援の方法、報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、ご家族様へ分かりやすいテーマを決め、利用者様の日々の様子や施設の取り組みを報告している。	2ヶ月毎にテーマを決め運営推進会議を開催している。家族参加に向けて、開催案内の他「家族アンケート」に運営推進会議についての設問事項を加えて、参加につながるようにと取り組んできたが、家族の参加には至っていない。区長・民生委員の参加があり、地域の行事や火災避難所の提供など、意見や提案が行われている。	さまざまな意見を活かし運営推進会議が行われるよう、地域の方や家族等の参加につながるような働きかけや会議内容を伝える方法などの検討に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険係、生活保護係などに情報交換や利用者様の相談などを関係を築くよう取り組んでいる。	市の各担当者と、生活保護や自立支援・ターミナル・利用者の受け入れ相談などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットにてマニュアルを配布し、勉強会を実施している。又、非常口の施錠については時間を決め開放している。又、言葉による拘束も視野に入れて取り組んでいる。	朝礼で身体拘束規約を復唱している。身体拘束禁止委員会でも、勉強会を年4回行っている。日々の関わりでは語気が強くなってしまふ時など、職員同士で注意し合ったり、利用者の話を聞くなど気持ちに寄り添ったり、定期的に所在確認をしたりして、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行ってきた職員が他の職員を中心に勉強会を実施している。ケアをするにあたってチームケア会議で話し合い、虐待を見過ごさないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護に関する関係者に相談できるような体制を取り支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明と同意を心掛けている。疑問や不明な点がある場合随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者様の状況が分かるよう、写真と一言記入したおたよりと、ケース記録を利用料請求書と同封し、事業内容を知ってもらっている。苦情・対応策も記録に残している。	玄関に、意見箱を設置している。家族にアンケートを実施し、ユニットリーダーによるリーダー会議で報告をしているが、集計がされていない。利用料は通常は振り込みだが手渡し希望や入浴で使用する物品使用の要望にも沿うよう努めている。	アンケートにより聴取した意見等を次に活かすためにも、職員全員が共有でき反映できるような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	無記名で自由に書ける「自発的改善案箱」を設置し社長をはじめ、管理者・施設長・各リーダーで改善に向けて話し合っている。	定められた用紙に、課題内容と解決策を記載し、提出する、あるいはその都度管理者に意見や提案をし、会議等で話し合っ、玄関ドアにひまわりマークをつけるなど、実現につなげている。ユニット間での共通認識が図れるよう「申し送りノート」を作成し、情報交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給・リクエスト休日は自由に休日を取ることができる。給与等の見直しや個人の目標を設置し、資格取得を支援し向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながら勉強ができるよう、休日や就業環境に配慮しながら外部研修、資格取得に機会を提供して積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設・同業者と交流を図り、情報の交換や施設の見学を行い、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が利用者様の訴えを傾聴できるよう相談支援の教育を行っている。又、毎日のケアの中では常に利用者様の不安や要望に耳を傾け、相談援助を行い、信頼関係を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全職員がご家族の訴えを傾聴し受容できるよう常に心掛けて、支援の方法を一緒に考えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに適切に対応支援できるようユニット会議を開いている。又、ご家族様と連絡を取り合い話を伺うなどして望んでいるケアが行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で個々の能力に合った役割を見つけ、モップ掛けや新聞たたみ、下膳など声掛けをし、介護される立場にならないよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連携を図り無理のないように外出、受診などお願いしている。支援される一方の立場にならないよう、支え合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭り見物や友人の訪問、実家への訪問などドライブを兼ねて支援している。	関連施設から入居した利用者もいて、関連施設の行事にも参加するなど、これまでの関係を継続できるようにしている。月2回以上ドライブを行い利用者の自宅を近くに行ったり、地元の祭り見学に行ったり、その他、馴染みの関係を継続することが困難になっているが、会話のなかで馴染みの事柄にふれ利用者がたのしめる場面をつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクや月間のイベント予定表を作成し、毎日の生活の中に取り入れてレク、イベントを通してお仲間との交流を図り、利用者様を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もアフターフォローとしていつでも相談を受けられるような体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活の中で会話をしたりレクアウトの機会に、利用者様の思いなど把握に努めている。意思表示の難しい方は、反応や態度などのサインを見逃さないよう会議で話し合い、安全に過ごせるよう支援している。	職員は、所属するユニットの利用者一人ひとりに1日合計15分は向き合い会話をするよう心がけていて、そうした中から意向の把握に努めている。しかし、その達成や内容の記録にはいたっていない。意思疎通が困難な利用者に対しては、家族の面会時に聞いたりして、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様、ご家族様と会い、事前に話しを聞いている。毎日の会話を取り入れて記録に残すよう全職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの性格・行動等を記録に残し、過ごし方や心身の状態、有する力を把握するため、ユニット会議を行って職員同士情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態・行動・思いを記録から情報を得て、ご家族様の要望や意見を聞き、ユニット会議で検討しリーダーが介護計画を作成している。必要に応じて医師の意見を取り入れて、6か月の見直しや状態の変化に応じて随時計画の見直しを行っている。	ケアプランの項目に沿った記録が記入できるように介護記録用紙の工夫がされ、アセスメント、モニタリング、カンファレンスと日々の状況に応じ意見交換を会議で行い、職員で情報を共有した一連の流れが出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様の意見・行動を記録に残し、提供したサービスの気づきを観察事項に記入し、職員の情報共有に努めている。又、介護計画の見直しの際、記録を活用して実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様の状態に合わせて外出・外泊・買い物など柔軟な支援に取り組んでいる。関連施設行事などにも参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや町主催の行事に参加したり、職場体験の中学生との交流(ドライブ・外散歩・レク)を図り利用者様が楽しく生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の意向に沿って対応をしている。(家族又は職員の付き添い)他の病院や緊急時などは家族と連携し、適切な受診ができるようにしている。受診内容は記録に残し、家族とも情報共有できるようにしている。	入居時に、今までのかかりつけ医が事業所の協力医の受診かを、希望に応じて対応している。受診は家族同行が基本だが、状況により職員が代行しており、代行時は日々の暮らしの状況を医師に口頭で伝えている。また、家族には日々の暮らしの様子のケース記録を、毎月発送している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態や既往歴の把握、状態の変化、バイタル測定など記録に残して適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を取り、急変時の連絡・依頼・着替えなどの不備がないよう協同し、定期的な面会を行い病院との情報交換や早期退院ができるように行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診対応を取り入れ、協力医療機関と相談しターミナルケアマニュアルを作成・活用し、重度化に対し介護計画同意書をご家族様と取り交わし、ご家族様・職員と話し合いを繰り返し重度化や終末期に向けたケアに取り組んでいる。	「看取り介護計画書同意書」を得て、家族の希望により看取りを行っている。医療的処置が必要な場合には、家族との話し合いで入院対応したり、往診・訪問看護を利用してターミナルケアに取り組んだりしている。看取り後の研修は、行われていない。	看取り後に、職員をケアするためにも、また、今後看取りを実施するために職員で共通認識を図るうえでも、研修が行われることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けており、急変時・事故発生に備えてマニュアルが各ユニットに置いてあり、把握に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けた訓練の他、夜間を想定した訓練を行っている。区長様・民生委員様・地区の方々にも協力を仰いでおり、避難場所として民生委員様の自宅を設けている。	消防署の協力を得て年2回、その他年2回自主訓練を、運営推進会議に合わせ行っている。火災に備え、風向きにより新たな避難場所の検討、水害に備え、情報収集のツール等を新たに作成している。また、各居室入り口には氏名と介助の区分(全介助・半介助等)を色別カードに記入し、援助者が分かるよう工夫している。備蓄も7日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中の「悔いなき言動」を元に声掛けの際も傷つけないケアを心掛けている。利用者様の言動を否定せず傾聴を受容で命令形の言葉ではなく、利用者様の意思で選択できるように支援している。居室入口にはのれんをかけプライバシーを保護している。	呼名は基本的に「さん」づけだが、本人・家族希望の呼び方で対応している。会話時には利用者の目の高さで、排泄時等は、耳元での声かけとしている。居室ドアの開閉にも配慮し、入り口に暖簾をかけプライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望を伺い、選択して自己決定できるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の訴えを優先に、外出・ドライブ・散歩・買い物等希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師さんの訪問カットや毎朝の整容を行い、清潔が保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・盛り付け・下膳・配膳・食器洗いを職員と一緒にやっている。	法人の管理栄養士が献立を1ヶ月分作成し、事業所で食材を購入し手作りしている。また、その時期の食材や地域の方からの頂き物・利用者の希望に沿いながら、メニュー変更している。利用者には皮むき、下膳、テーブル拭き、洗い物などできることを、職員と共にやっている。月1回は、利用者優先の献立(刺身等)にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列の施設の栄養士が献立を作成したのを元に、一人ひとりの食事量・水分量を毎日記録に残し状態の把握に努めている。又、各ユニットで煮沸消毒など衛生管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて介助一人ひとりに合った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を毎日の記録に残し、職員が排泄パターンを把握するよう努めている。利用者様の状態に応じ適切な支援・介助に努めている。	利用者一人ひとりのトイレサイン(そわそわした様子・立ち上がり等)や排泄チェック表での排泄パターンの把握、食後2時間の声掛けでトイレ誘導する事で、自立に向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握して消化の良い食事や軽い運動などをして自然排泄ができるように努めている。又、自然排泄が困難な場合は医師に相談し服薬で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本に利用者様の好きな時に入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる方には声掛けの工夫や入浴剤の使用にて楽しんでいただけるよう努めている。	原則週2回の入浴としているが、希望時や失禁等汚れてしまった場合には、入浴している。拒否のある利用者には、その方にあわせて受診や面会をきっかけとして、入浴につながるような声かけをしている。また、入浴剤や音楽等、利用者一人ひとりの希望に沿えるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて昼寝・就寝をしていただいている。休息できるようにリネン交換や居室清掃など清潔に保ち安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書は個人ファイルに保管し、受診時には職員で情報共有し、飲み忘れ・飲み残しが無いよう確認している。又、目的・作用・副作用を理解し状態の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人・ご家族様よりアセスメントを行い、好きなこと・得意なことなど情報を聞き、毎日の生活やレクに取り入れて気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのニーズに沿って外出・外散歩・お茶会・買い物・季節行事を予定表・計画表を元に支援している。又、沼田祭りや納涼祭に参加している。	季節にあわせて、地域のどんど焼き、花見、祭り等に行く他、散歩・スーパーへの買い物など週数回の外出や馴染みの美容室へ出かけている。また、友人宅へも職員と共に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者様はお小遣いを決め、好きなものをスーパーなどに出かけている。職員付き添い又は代理の買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の近況をおたよりに写真を貼り・コメントを記入し家族と連絡を取ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	応接間にはTV・新聞・雑誌を設置したり、お仲間同士やご家族との共有空間を設けている。各ユニットの居間には季節感を取り入れた装飾や、廊下には写真などを飾っている。	居間には温度計があり、26℃に設定して、居心地よく過ごせるよう、職員が利用者の様子を見ながら調節している。キッチンからは食材の切る音、臭いなどを感じる。ソファ、テレビとくつろぐスペースがある。また、壁には季節に応じた手作り品が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お仲間と良好な関係を保てるよう利用者様一人ひとりの席の配置に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には中が見えないようなれんがをかけてある。居室にはご家族様の写真・誕生日・敬老会・イベントの色紙など飾っている。	事業所ではベットを準備しているが、今まで使用していたタンス・椅子・机・布団・仏壇・写真や手作り品、友人からの贈り物が飾られている。また、思い出の品々が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の手すりの設置や利用者様が使いやすいようタンス・ベッドの配置・トイレ等の案内の目印を床に貼り、安全配慮している。		